

久留米大学を受診した患者さんへ

「不安定型仙骨骨折に対する M プレート固定の治療成績の研究」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術の際に保存されている以下の単純レントゲン、診療情報を使用します。

- 1) 期間：2002（平成 14）年 4 月から 2010（平成 22）年 12 月
- 2) 受診科：久留米大学高度救命救急センターまたは整形外科
- 3) 対象疾患名：不安定型仙骨骨折
- 4) 使用する試料（情報）：単純レントゲン、診療情報（臨床症状）

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：整形外科
研究代表者：助教 松垣 亨
研究分担者：臨床教授 白濱 正博
教授 志波 直人

2) 研究の意義と目的：不安定型仙骨骨折に対する治療法は未だ確立せれておらず、当院では 2002 年より M プレート（BEST MEDICAL, Tokyo）で仙骨の骨折部を固定し、合併する前方要素の損傷（恥骨骨折、恥骨結合離開）に対しては内固定を行わず、また合併する神経障害に対してもとくに処置を行わない方針としています。今回その有用性を検証し、不安定型仙骨骨折に対するより良い治療法を確立し、より良い治療を提供することを目的としてこの研究を行います。

3) 研究の方法：不安定型仙骨骨折患者に対しては術前に骨折型と神経所見の評価を行い、M プレートを内固定材料として用いて骨接合術を行い、退院後は外来で経過観察を行っています。今回入院時のカルテの術前の神経学的評価と、最終評価時の神経学的所見を比較して改善を比較検討します。また外来での最終評価時には機能評価を行います。さらに単純レントゲンで骨癒合の評価に加えて骨折部の転位の評価を行います。

4) 研究期間：平成 28 年 2 月倫理委員会承認後～平成 32 年 1 月 31 日

5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：仙骨骨折の治療においては、疼痛やしびれなどの臨床症状のみならず、単純レントゲンでの骨癒合の評価や変形の有無が重要であるた

め、単純レントゲンと診療情報（臨床症状）を使用します。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：研究データの公表に際しては、本人が特定できないように十分な配慮を行います。

7) 研究成果の発表の方法：論文と学会で発表させていただきます。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

代表者： 松垣 亨（整形外科、助教）

住所： 福岡県久留米市旭町 67

TEL： 0942-31-7568

FAX： 0942-31-0709